



山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM

ハプスブルク家の遺宝 マリア・テレジアの愛した古伊万里展

1998年4月29日(水)～6月7日(日) 山口県立萩美術館・浦上記念館

主催:山口県立萩美術館・浦上記念館、**KRY**山口放送、読売新聞西部本社
 後援:萩市、FBS福岡放送 協賛:オーストリア航空
 休館日:月曜日 [5月4日(月) 開館] 開館時間:午前9時→午後4時30分(入場は午後4時まで)
 入館料:一般1000(800)円/学生800(600)円 高校生以下無料、()内は20名以上の団体料金
 同時開催:
 浮世絵平常展示・諸国名所風景画 4月29日(水)～6月7日(日)
 東洋陶磁平常展示・高麗青磁と粉青沙器 4月29日(水)～7月20日(月)



IMARI-PORCELAIN FROM THE PERSONAL COLLECTION OF EMPRESS MARIA-TERESIA



1



2



3

ヨーロッパの歴史を通じて最も華やかな文化を織り綴ってきたオーストリア、ウィーンのハプスブルク家。一族の集めてきた美術品は膨大な量に昇ります。その中でも17・18世紀に貴族達にこよなく愛され、熱心に収集されたのは実は日本の有田で焼かれた古伊万里だったのです。

日本の江戸時代にあたるこの時期に古伊万里は長崎を出発し、遙か海を越えたヨーロッパに輸出されていきました。日本で作られた古伊万里は、金、銀の装飾を施され形、趣を変えて食器や美術品として愛好されました。特に芸術に造詣が深かったといわれる女帝マリア・テレジアの時代にこうした古伊万里は多く集められ、西洋の装飾技術と融合し、日本国内で見られる古伊万里とは全く異なる美術品としてハプスブルク家の華やかな貴族文化を彩ったのです。

本展覧会では長きにわたって王宮倉庫で眠り続け、1995年に再び公開されることとなったマリア・テレジアの古伊万里コレクションの中から厳選された約100点を紹介するとともに日本とオーストリアとの、古伊万里が繋いだ華麗なる交流の歴史を綴ります。

ハプスブルク家の遺宝 マリア・テレジアの愛した古伊万里展



シェーンブルン宮殿

IMARI-PORCELAIN FROM THE PERSONAL COLLECTION OF EMPRESS MARIA THERESIA

■ 記念講演

①日時:4月29日(水) 午前10時30分~12時
会場:本館講座室
講師:ペーター・パンツァー氏(ボン大学教授)
「ヨーロッパ貴族の生活と古伊万里」

②日時:5月9日(土) 午後2時~3時30分
会場:本館講座室
講師:大橋康二氏(佐賀県教育庁文化財課)
「古伊万里の輸出とハプスブルク家伝来品」

※「記念講演会」係あてに往復はがきでお申し込みください。

■ 次回予告

没後150年記念「北斎-東西の架け橋」展
6月13日(土)→7月20日(月)

■ 交通のご案内

- JR東萩駅=タクシー10分/徒歩30分
- JR小郡駅=バス70分
- (萩バスセンター下車、徒歩15分)
- 石見空港(島根県益田市)=バス75分
(萩バスセンター下車徒歩15分)
- 中国自動車道=小郡I.C. 美祢I.C. から各50分



山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM

(〒758-0074) 山口県萩市平安古586-1
TEL0838-24-2400/FAX0838-24-2401



4

シェーンブルン宮殿「日本の間」壁面



5

- 1:色絵牡丹文宝箱 有田部分1700~1730年
 - 2:色絵楼閣桜樹山水注 1700~1730年
 - 3:食卓装飾セット
銀枠=ウィーン製1720年頃 新刻印=ウィーン1806/7年
 - 4:色絵花盆楼閣山水文壺 1700~1730年
 - 5:色絵婦人図鷹獅子文皿 1720~1750年
- 表:色絵鯉滝昇獅子牡丹文角瓶 1720~1750年

《割引券》

ハプスブルク家の遺宝 マリア・テレジアの愛した古伊万里展
●当日券の100円引き